

## 平成22年度研究開発実施報告書（要約）

### 1. 研究開発課題

小学校における「公共性」を育む「シティズンシップ教育」の内容・方法の研究開発

### 2. 研究の概要

本校の「シティズンシップ教育」は学習において「公共性」を育む授業改善の取り組みである。本校で定義する「公共性」とは、「子ども達が友だちと自分の違いを排除せず、理解し考える力を発揮すること」であり、そのためには教師自身が民主主義に基づく社会生活を創る資質・能力を探究し育成する視点と力量をもつことが必要とされる。子ども達に授業（学習）を通して育てる資質能力が「公共性リテラシー」である。「公共性リテラシー」は全学習分野において育成する。教育課程は「学習分野」と「創造活動」で編成し、当開発では「学習分野」研究に焦点を当てる。教育課程運用には協力学年担任制と学習分野担任制を併用する。「公共性リテラシー」を育む教育課程の内容は『学習における「公共性」育成プラン』にまとめ、合わせて校内研究を教師の学びとして持続可能なものにするために授業研究のあり方を改善し提案する。

### 3. 研究の目的と仮説等

#### (1) 研究仮説

##### ① どのような手段を考えているのか

##### ア 協力学年担任制

個々の教師が他の教師と協力して子どもを育てるという考え方から「協力学年担任制」を採用する。

##### イ 学習分野担任制

全ての教科（学習分野）で「公共性」を育むことをねらい、目の前の子どもの実態から教育内容や方法の研究を具体的に進めるために、「学習分野担任制」を採用する。「協力学年担任制」で安定の基盤をつくった上に教師の専門性を生かして子どもを育てるという考え方である。

##### ウ 各学習分野で『学習における「公共性」育成プラン』を作成する

全ての学習分野において、「公共性」育成に資する教育内容や適切な方法を抽出し、本校オリジナルの『学習における「公共性」プラン』を作成する。その中で、学習分野で育む「公共性リテラシー」を明らかにする。

##### エ 「公共性」を高める校内研究体制を構築する

【授業者が学習指導案を考える ⇒ 校内授業研究会 ⇒ 実践記録を授業者が書く ⇒ グループで読みあい省察する ⇒ 各自の授業改善に活かす（実践者は記録を書き直す）】という専門職としての教師の対話的な校内研究サイクルを確立する。

##### ② どのような成果を期待しているのか

##### ア 協力学年担任制

複数の担任教師が一人ひとりの子どもに学習指導と生活指導に関わることによって、子ども側は多面的な見方や価値観にふれることができ、よりどころを得て精神的な安定感につながる。様々な教師の人間性や指導法に触れて異なる価値観や意見に出会い、いろいろな立場で考える機会が増えるので「公共性」を育むことへ促進的に働く。

教師の側からすれば、「公共性」育成を異分野の視点で考えるチャンスが増え、個々の教師が経験的